

千葉製油所 (2005年3月31日現在)

所在地	千葉県市原市五井海岸2
操業開始年月	1963年2月
面積	1,199,619m ²
社員数	346名
原油処理能力	240,000バレル/日
ISO9001認証取得	1996.12.25認証取得
ISO14001認証取得	1998. 3.13認証取得



千葉製油所について

当製油所は京葉臨海工業地帯における千葉石油化学連合の中核工場として、近隣石油化学工場等への原料供給、およびコスモ石油における石油製品の最大の供給拠点として、東日本全域をカバーし、近年は海外への製品輸出にも力を入れています。

- 環境への取り組み：環境先進製油所をめざし、環境中期計画にそって3つの挑戦をしています。サルファーフリー燃料の生産・供給、省エネルギー、産業廃棄物の最終処分量の低減等を重点に、環境マネジメントシステムを運用、活用し、継続的な改善を積極的に行っています。
- 安全への取り組み：地域社会の安全を確保し、社会との共生、そして社会に貢献することを理念としています。「地域から信頼される製油所」をめざし、当所の事業活動のすべての面で安全を第一に配慮しながら全社員および協力会社による安全の確保に努めています。
- 地域社会に対する活動：「地域社会との共生」を柱として、「飛燕杯争奪少年野球大会」や市原市の代表的な祭りである「五井臨海まつり」の主催を行っています。また新たに「エコ」カード基金を活用した、地元小学生対象の「里山保全教育」を開始し、種々の活動を通じた対話を進めています。



千葉製油所所長
矢嶋 隆司

環境保全活動

- 省エネ
「プレート式熱交換器」「モーターのインバータ制御 (HDRIVE方式)」等の導入
- 環境関連設備
「ガソリン脱硫設備」の導入 (サルファーフリーガソリンの供給) ほか

安全衛生活動

- 大整備・大型設備 (ガソリン脱硫設備) 導入
製造・保全両部門一体での徹底した工程管理・工物品質管理・現場教育等により無事故・無災害で実施
- 未然防止 (ソフト対応)
所員一人ひとりの「マイエリア」の設定
- 成果
労働無災害時間の業界第1位 (16,420千時間) の保持 ほか

地域コミュニケーション活動

- 「五井臨海まつり」の全体の統括や模擬店の出店、元旦行事・盆踊りへの参加
- 地元消防団との交流会の実施
- 町会役員との交流会の実施
- スポーツ大会の後援や地域行事へのグラウンド提供、バスの配車協力
- 近隣道路の清掃 (年9回)
- 「エコ」カード基金による「里山保全教育」の実施 ほか



環境関連資格保有者数

公害防止管理者 (大気)	14名
公害防止管理者 (水質)	20名
公害防止管理者 (騒音)	4名
公害防止管理者 (ダイオキシン)	2名
危険物取扱者 (甲・乙種)	560名
高圧ガス製造保安責任者 (甲・乙種)	246名
エネルギー管理士 (熱)	15名
エネルギー管理士 (電気)	5名
特別管理産業廃棄物管理責任者	2名
産業廃棄物施設技術管理者	2名
ボイラー特級	4名
ボイラー1,2級	310名

2004年度製油所見学者数	58件 785人
労働無災害記録 (延べ時間) (2004年12月現在)	16,420千時間
PCB保管状況	高圧コンデンサー 62台 高圧トランス 17台 その他

法規制物質

大気	物質	規制値	2004年度実績	
			最大	平均
	NOx (m³N時) (総量規制)	141.1	127.7	100.1
	SOx (m³N時) (総量規制)	189.7	152.9	104.9
	ばいじん (ボイラー) (g/m³N)	0.07	0.046	0.021

水質	物質	規制値	2004年度実績	
			最大	平均
	COD (kg/日) (総量規制)	223	217.7	112.2
	COD (mg/l)	25	7.1	5.5
	SS (mg/l)	50	12.8	7.4
	油分 (mg/l)	3	0.7	0.6
	窒素 (kg/日) (総量規制)	222	209.4	92.3
	窒素 (mg/l) (10)	(10)	1.8	1.7
	リン (kg/日) (総量規制)	12.5	7.1	2.4
	リン (mg/l) (1)	(1)	0.11	0.08
	フェノール類 (mg/l)	0.5	定量下限未満	

()内は日間平均値

環境パフォーマンス (エネルギーなど)



環境パフォーマンス (PRTR)

PRTR対象物質	単位	排出量				移動量
		大気	水域	土壌	合計	
エチルベンゼン	kg/年	260	0	0	260	0
キシレン	kg/年	1,000	0	0	1,000	0
コバルト及びその化合物	kg/年	0	0	0	0	9,300
1,3,5-トリメチルベンゼン	kg/年	0.3	0	0	0.3	0
トルエン	kg/年	5,100	0	0	5,100	0
ニッケル化合物	kg/年	0	0	0	0	78,000
ベンゼン	kg/年	690	0	0	690	0
モリブデン及びその化合物	kg/年	0	0	0	0	140,000
ダイオキシン類	mg-TEQ/年	0.77	20	0	20.77	0.32

※上記のほか、2-アミノエタノール、クレゾール、シクロヘキシルアミン、テトラクロロエチレン、ノニルフェノール、ヒドラジンは1,000kg/年以上の取り扱いがありますが、排出量および移動量はすべて0kg/年となっています。

環境会計

環境保全コスト (百万円)

項目	2004年度	
	投資額	費用額
1事業エリア内コスト	90	1,411
公害防止コスト		
地球環境保全コスト	1	3,229
資源循環コスト	5	282
2上・下流コスト	0	0
グリーン購入によるコスト		
製品の環境負荷低減コスト	5,002	18,509
製品の低硫黄化	(3,997)	(15,543)
ガソリンの有害物質代替	(1,005)	(2,965)
3管理活動コスト	0	127
4研究開発コスト	0	0
5社会活動コスト	0	1
合計	5,098	23,599

再生紙の購入費 1 (百万円)

経済効果 (百万円)

項目	2004年度
省エネルギーによる節約額 (コージェネレーションによる節約)	579
触媒リサイクルによる節約額	33
合計	612

環境保全効果

項目	2004年度	
	環境負荷削減 (前年度—当年度)	負荷量
①事業エリア内の効果		
事業活動に投入する資源に関する効果		
エネルギーの投入	0.34 (kl-原油/千kl)	▲8 (TJ)
水の投入	7 (kg/kl)	138 (千t)
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果		
大気への排出	CO2	1.05 (kg-CO2/kl) 11 (千t-CO2)
	SOx	1.2 (g/kl) ▲10 (t)
	NOx	0.5 (g/kl) ▲21 (t)
	ベンゼン	0.00 (g/kl) 0.07 (t)
水域への排出	COD	▲0.08 (g/kl) ▲7.7 (t)
廃棄物の排出	産業廃棄物発生量	▲57 (g/kl) ▲5,492 (t)
	産業廃棄物再資源化量	▲17 (g/kl) ▲1,630 (t)
	産業廃棄物最終処分量	1 (g/kl) 78 (t)
②上・下流の効果		
製品の環境負荷低減効果		
製品の低硫黄化	(硫黄分:質量%)	(潜在SOx量:t)
ハイオクガソリン	0.0000	1
レギュラーガソリン	0.0002	0
ナフサ	0.0017	▲20
ジェット燃料	▲0.0017	▲38
灯油	0.0011	24
軽油	0.0011	44
A重油	0.0369	673
C重油	0.0119	6,834
LPG	0.0000	0
合計	0.0354	7,518
ガソリンの低ベンゼン化	▲0.0036 (容量%)	▲459 (t)
製品使用時のCO2排出量	0.0226 (t-CO2/kl)	639 (千t-CO2)